2013年（平成25年）
第62号
（2月1日）

# 平安月報
The HEIAN monthly report

発　行　所：立正佼成会　京都教会
発行責任者：渉外部長　宮地啓安
編集委員長：渉外広報　植田恭司
〒605-0041　京都市東山区三条蹴上
TEL (075)762-2211
FAX (075)762-2266

## 御親教式典　仏の教えをしっかり学び、実践しよう

１月７日、庭野日鑛会長から今年初めての指導を受け、会員が一年の決意を新たにする御親教式典が、本部大聖堂及び全国の教会で行われました。京都教会でも多くの会員が参拝し、衛星放送を通して、本部の式典の模様を見入っていました。

庭野会長は法話の中で、元旦参りで奏上された「年頭誓願文」の中に人材育成には『感性・知性・品性』を養うことの大切さを加えたことを説明しました。

さらに、「学び、実践する」と題した年頭法話にふれ、仏教は慈悲の教えであり、一年間教えをしっかり学んで、実践することが大事だと強調しました。

そして、学びは実践によって身につくもので、名前で人が決まるのでなく、行為で人の尊さが決まると、実践することの大切さを述べて、結びに今年の書き初め「燈明」「如来」を説明しました。

衛星放送終了後、佐藤教会長があいさつに立ち、「明るく、優しく、温かく」という言葉は佼成会では、ずっと大事にしてきたもので、親孝行や仏への供養などを実践することで身につけていくものだと語りました。

京都教会での式典

法話に立つ庭野会長

## 京都市成人式ボランティア　青年部・布教員が新成人を祝う

青年による場外ボランティア　　布教推進員による姓名鑑定

１月14日、京都市成人式が左京区のみやこメッセで行われ、正午と午後２時半からの２部制で新成人8,339名が門出を祝いました。

同成人式に毎年、本会からボランティアとして参加。今回は場外ボランティア（写真左）に青年部から18名、姓名鑑定ボランティア（写真右）に布教推進室のメンバー10名が参加しました。特に姓名鑑定は好評で、自分を知りたい若者が多数集まりました。

当日はみぞれまじりの雨に冷え込みましたが、ボランティアからの温かいお祝いの声に、新成人の心も温まったことでしょう。

## 時々刻々

２月３日は節分です。この日は各地で「鬼は外」「福は内」と豆まきが行われます。季節の変わり目は邪気（鬼）が生じると考えられているからだそうです▼一般的には災いは外から来るものだと思われています。自分を不幸にするものは外にあると考えます。だから、相手や条件を変えたがるのが人の常です▼しかし、仏教では内も外もなく、幸不幸にするのは条件（縁）ではなく、自分（因）であると教えます。縁を変えるのでなく、縁を通して因を変えるのが大切だと言われています▼本当の鬼は外から来るものでなく、内に潜んでいるかもしれません。また、福を一人締めしては本当の幸福にはなりません▼節分を機に、だれかに幸福にしてもらおうと願うのでなく、自分を切り替え、他の幸福を願う心に「福が宿る」のでしょう。だから、教会では「福は内」「福は外」と言って豆をまきます。

## 今月のことば　～釈尊のご生涯に学ぶ～

京都教会長　佐藤益弘

機関誌『佼成』２月号で、会長先生から「生ずれば滅す」というご法話をいただきました。釈尊涅槃会の月に相応（ふさわ）しいお話であります。その文中にありますように、さとりを開かれた釈尊であっても、８０歳で入滅されたことをもって、限りある命であることを教えてくださいました。「生ずれば滅す」とは、あまりにもあたり前のことですが、それを私自身が承知して生きているかというと、自分はまだまだであると思います。

既にご存知のとおり、３５歳で成道された釈尊は、入滅されるまでの４５年間、布教伝道されました。そして人生のゴールが近いと思われた釈尊は、阿難尊者を伴われ、マガタ国の王舎城から、最後の旅に出られました。その途中、マッラ国のパーヴァの郊外にある金属細工業者・チュンダの所有する果樹園に落ち着かれました。そこで供養の食事を召し上がられたのち、中毒を起こされました。チュンダは自分が調理した食事が原因で、釈尊を中毒症状に至らしめてしまったという自責の念にかられていました。すると、阿難を通じて、釈尊がさとりを開かれる前に、スジャータが乳粥を供養してくれたことと、チュンダが入滅にあたり食事を供養してくれたことの功徳は等しく、大きいとのお言葉を伝えられました。さらに、「チュンダよ、歎くことはない。いつも私は教えていたはずだ。『人はなぜ死ぬのか、生まれてきたから死ぬのである』と。今日お前が調理してくれた食事を、私がたとい食べずに生き延びたとしても、明日私は別の縁で死ぬかもしれぬ。お前の作ってくれた食物で私は死ぬのではない。私は生まれたから死ぬのである。チュンダよ、歎くな」（松原泰道著『釈尊最後の旅と死』祥伝社、１７７～１７８頁）と諭されました。さらに続けて、これからチュンダを責める者が出てきても、決してチュンダを咎めてはならない！とまでおっしゃいました。このように、釈尊は限りなき慈悲を示され、一人ひとりをお救いくださいました。しかも、釈尊の根本的なさとりである「因果の理」を明確にお説きくださったのであります。そして、最後まで、すべての人の心に輝きを放つ人生を歩まれました。

私も、釈尊のご生涯に学び、「生まれたものは死んでいく」という真理を認識し、いま命あることの有り難さをかみしめ、日々を過ごして参りたいと思います。さらに今後、どのような場面であっても、慈悲行に徹した生き方ができるよう、精進を続けさせて頂きたいと存ずる次第です。

合掌

【佼成２月号はこちらからご覧頂けます→
http://www.kpc-web.net/book-preview/kosei/201302/】

## 京都教会　成人式　～親、神仏、周りの人の恩を知り、よりよき人生に船出～

１月27日、京都教会第47回成人式が教会法座席で第１部式典を、体育館で第２部祝賀会が行なわれました。今年は25人の青年部員が二十歳になりました。その中から７名の新成人が参加しました。

第１部式典ではご供養の中で佐藤教会長が25名の成人者名を読み上げました。引き続き、成人者一人ひとりがスピーチ。両親、家族をはじめお世話になった方々への感謝の言葉を述べました。その後、佐藤教会長から祝辞、記念品贈呈があり式典を終わりました。終了後、支部別に成人者を囲んで祝福と喜びの声を掛け合い、成人者の記念撮影を行いました。

祝賀会では、子供たちからの花束贈呈、ティンクバトンによるバトン披露などステージでアトラクションが行われました。支部の会員が成人者を祝して、共に歓談しながらステージを観覧していました。また、成人者が壇上で自分の夢について発表を行ない、これからの人生の抱負を述べました。最後に、吉田 LEO 隆さんの歌「未知なる道」に合わせ、成人者を取り囲んだ青年部員と一体感を味わいました。

## 元旦参り　新年の心構えをいただく

(上)門川市長(下)佐藤教会長

１月１日、午前６時30 分から京都教会において元旦参りが行われました。世界平和を願い、新年を迎えての決意を込めて法華経の読誦を行いました。

その後、門川京都市長、前原衆議院議員から新年のあいさつがありました。続いて、佐藤教会長が「菩薩行を通して、明るく優しく温かい人になろう」と述べました。

## 三毒を取り除く「寒中読誦修行」

１月 22 日から 31 日までの 10 日間、朝６時から京都教会において寒中読誦修行が行われました。

本部大聖堂をはじめ、全国の教会では、大寒（1 月 20 日）から節分（2 月 3 日）まで行われるものですが、京都では支部が 10 あるので、各支部が担当して 10 日間で実施されました。

10 日間の法華三部経読誦を通して、貪（とん：貪る心）、瞋（じん：いかりの心）、痴（ち：真理を知らない心）の三毒を清め、新しい決意をもって、立春を迎えようと取り組みました。

## 洛叡支部　新春支部の集い

「支部の集い」懇親会

１月 19 日、洛叡支部の会員 41 人が参加して、「新春の集い」が京都教会第一研修室において行われました。

佐藤教会長と大野支部長のあいさつを受け、参加者は新年の心構えをかみしめながら、絆を深める集いになりました。

当日は、午前 11 時から、昨年亡くなられた元支部壮年部長を偲ぶ会も開催されました。

## 宇治支部　新年の法座所開き

（上）山本市長（下）佐藤教会長

１月 13 日、宇治支部の法座所開きが行われました。昨年 12 月に当選された宇治市長・山本正氏をはじめ京都府議会議員、宇治市会議員、教会役員、支部の会員ら、約 80 名が参加しました。

佐藤教会長はあいさつで「『辛い』という字に一足すと『幸』になる。仏さまの見方を一つ足すと『幸せ』と受け取れる」と述べました。

## 庭野日敬の著書に学ぶ　「リーダーとは」より

**********

「リーダーだからといって、自分のほうのつごうで人を思うままに動かそうとしても、それは無理です。……『会社の発展・組織の発展の要諦は、その中心になる人が謙虚になれるかなれないかで大きな差がついてしまう』と言います。謙虚さが欠けると、聞く耳が持てません。相手が何を求めているか知らずに相手を説得することはできません。人の心を知らずに人を動かすことができる人などいないのです。」

**********

世の中が不安定になると、リーダー待望論が出てきます。しかし、今の社会にはさまざまな組織があり、それぞれのリーダーが存在しています。強いリーダーシップをもつ人材の登場を期待するのもいいですが、リーダーの役についている一人ひとりが、真のリーダーとしての役割を果たす方が、現実的であり、すぐに組織が活性化することになるでしょう。

リーダーとは人を動かして仕事をするものです。したがって、人が喜んで働き、力を発揮してもらうために、リーダーとしてのあり方が問われるのです。仏教の神髄を身につけ、実践や体験を通じて、周りの人々を等しく信頼して、相手に慈悲の心で接していく。庭野開祖の語りかけるような法話から、自らがこのようなリーダーを目指したいと思えるようになります。

この本は「庭野日敬法話シリーズ」の一冊として、1986 年に発売された『リーダーとは』が“新書版”として新たに発刊されものですが、各章の法話は、時代を超えても色あせることなく、むしろ現代にこそ相通ずる内容です。

## 庭野開祖の宗教観・平和観　「一乗の道」

**≪法華経の三つの柱≫**

もう一つの法華経の柱は、融和の精神と使命感という、ともすると相反するものになりがちな二つを、永遠の時の流れの中でともに成就させようとする精神です。目の前のことだけにとらわれると、使命感は反対の立場をとるものを論破し、屈服させようとする過ちに陥ってしまいます。仏教は『精進』と同時に『忍辱』を教えます。精進は、こうしてはいられないと励むことですが、それと同時に、いかに困難に見えようと自分の最善を尽くせば、必ず仏さまのご守護が約束されるという大きな安心感をもって、焦らず、しかし怠けずにつとめていくのが法華経の行者なのです。

庭野開祖は「今日まで、様々なご苦労があったことでしょうね」と尋ねられることがあるが、「特別な苦労や大変なことがあったとは思っていない。神仏は、どこにおられるかではなくて、働きである。利他のために働くならば、神仏は必ずおられて、ともに働いてくださるのがはっきりと信じられる」。庭野開祖はそう信じて、これまで歩んでこられたのです。

**《すべてに導かれて》**

庭野開祖は「菅沼から志を立てて上京し、法華経に出会い、立正佼成会を創立し、法の妙力に人々が吸い寄せられるように集まってきた草創期、修行を共にしてきた妙佼先生（脇祖）を失っこと、その後、法華経教団としての本格的な修行、活動が展開された。その歩みはすべて神仏のお手配によるものであった。そのお手配のままに、素直に、正直に、真剣に歩み続けようと精一杯努力してきた道のりが、立正佼成会の歴史であった」と、述べています。

天台座主の山田恵諦師が「庭野さんは真剣だから、みなさんがついてこられるのですな」とおっしゃられたことがありました。佼成会が今日あるのは、庭野開祖をはじめ、会員の真剣さがすべてだったと言ってもいいでしょう。在家の仏教徒である会員たちは、寸暇を惜しんで、苦しむ人のために祈願し、悩む人に心の持ち方を話し、くじけそうな人を励ますことで慈悲喜捨の四無量心を実践してきました。そうした会員の姿を、地域の人たちが認めて協力して下さるようになり、さらに、世界の宗教者の方々も一緒に力をあわせて行動してもらえるようになったのです。その歩みを続けるのは、会員の菩薩行、明るい社会づくりを進める地域のリーダーの方々の働き、そして世界平和を推進される宗教者の方々の記録といった方がいいかも知れません。　（次回に続く）

## 新宗連京都・青年部　今年も活発に

昨年発足した新宗連京都府協議会・青年部は、今年もお互いの交流を深め、協力し合って、個々の信仰心を高めるため下記の活動を実施していきます。

１）福幸の集い

東日本大震災の復興を支援するとともに、被災者が一日も早く安寧な生活に戻ってもらいたいとの願いをもって、３月９日に佼成会で開催します。

２）祇園まつり鉾曳きボランティア

７月17日の祇園祭で鉾曳きボランティアを行い、京都の伝統文化の継承に取り組んでまいります。

３）教団訪問

今年も加盟教団を訪問し、学習します。

## 亀岡宗教懇話会　今年度の取り組み

１月24日、かめおか宗教懇話会の理事会が開催されました。本年度も仏教、神道、教派神道、新宗教、亀岡市から理事が参加し今年度の活動方針について話し合われました。宗教は違っていても、世界平和を願い、人々の幸せを祈る心や行動は共通することを確認し、亀岡市民にこの祈る心や行動を呼びかけていくための取り組みを推進します。

具体計画として、「かめおかこころ塾」が年４回開催されます。（次回の「こころ塾」は４月を予定）また、参加教団が共に学び合うための教団訪問も実施します。理事会終了後、出席者全員で懇親会を行い、より一層の絆を深め合いました。

## 渉外部からのお知らせ

●２～３月の主要行事予定

| | | |
|---|---|---|
| 2月　3日 | 節分会 | 10：00～ |
| 2月15日 | 涅槃会 | 9：00～ |
| 2月23日～24日 | 全国教育者研究大会（大阪普門館） | |
| 3月　5日 | 創立記念日 | 9：00～ |
| 3月　9日 | 新宗連青年部「福幸の集い」 | 10：00～ |
| 3月11日 | 東日本大震災慰霊法要 | 9：00～ |
| 3月 後半 | 春季彼岸会（支部ごと） | |

●メッセージ

先日のニュースで退職金を多くもらいたいがために早期退職する公務員・教職員がおられると報道されていました。中には担任の教師もおられるとか。その方々にもご家庭の事情もあるでしょうから一概には言えませんが、保護者側からすれば無責任な先生とうつってしまうかもしれません。何を中心に考えるかで行動は大きく変わってしまうものです。「子供は国の宝」であることは皆が認識したいものですね。